



まもなく待望の夏休みがやってきます。今年は冷夏で雨が多く、読書をするにはもってこいの毎日でした。みなさんは4月から本を何冊読みましたか。まだ1冊も読んでいない方は、取手二高の図書館で本を借りて読んでみましょう。3年生は進路にも役に立ちますよ。

夏休みには10冊も借りられます。

第64回 青少年読書感想コンクール《 課題図書を紹介 》

ヒマラヤに学校をつくる

～カネなしコネなしの僕と、見捨てられた子どもたちの挑戦～

吉岡大祐 旬報社



この川のむこうに君がいる

濱野 京子 理論社



ザ・ヘイト・ユー・ギヴ

あなたがくれた憎しみ

アンジー・トーマス著 服部理佳訳 岩崎書店



夏休み中の図書館利用について

- ★開館日…別添の予定表で確認してください。
開館・閉館時間は、日程により異なります。
- ★夏休みに入るにあたり本の長期貸出を行います。
*返却日 …9月6日(金)
*貸出冊数 …10冊まで

前回に続き校長先生の読書体験後半を掲載致します。

読書にめざめた頃 (後編)

学校長 塚本 敏雄

中学時代は、NHKの大河ドラマを見るようになり、その原作の司馬遼太郎や子母沢寛などを讀んだり、太宰治を讀んだりしていました。

司馬遼太郎の『燃えよ剣』は新選組の土方歳三を主人公とした小説で、司馬遼太郎作品の中では好きな作品です。司馬遼太郎の中では、後に讀んだ『世に棲む日々』という高杉晋作などを主人公とした小説も好きです。



子母沢寛という小説家はいまでは司馬遼太郎ほどは有名ではないかも知れませんが、当時大河ドラマにもなった『勝海舟』という歴史小説はとても好きです。実を言うと、どちらかと言えば、司馬遼太郎よりも子母沢寛の方が好きで、主要な作品はほとんど全作品読んでいます。子母沢寛という小説家は、自分のお祖父さんが徳川幕府の幕臣で、明治政府に敗れて北海道に移民した人で、子どもの頃から江戸の話を書かさせて育ったので、小説家となってからも、幕府の側からしか幕末の話を書かないという、いっふう変わった小説家でした。

好きになった作家の作品は全部読むという読み方はその頃から始まっていて、のちに池波正太郎の時代小説をほとんど全部読んだりしています。池波正太郎という作家は、『鬼平犯科帳』や『雲霧仁左衛門』などのテレビ時代劇で人気がある小説家です。人気作家ですから文庫になっている作品だけでも百冊以上あると思います。それらを片っ端から読んでいきました。もっとも、これはだいぶ大人になってからの話です。

中学校時代に、大学を出たばかりの若い国語の先生がいて、いつも本を読んでいました。何かの用で職員室に行くといつも机の上に本が積んでありました。ある時、詩集らしきものを読んでいたので、「先生、何読んでいるんですか」と尋ねると、「ああ、これ？ 興味があるなら貸してあげようか」と言って貸してくれたのが、当時角川文庫で出ていた『日本現代詩全集』第10巻で、10巻本の最後の巻でした。そのシリーズは、日本の主要な詩人を明治時代から現代まで収録している本で、最後の第9巻と第10巻は、その時点での最新の詩人たちを収録した巻でした。私は、その本で現代の詩人たちに出会い、寺山修司や谷川俊太郎に出会い、多くの詩人たちを読むようになりました。

その先生は、私が高校に入る時に、記念にと言って、吉本隆明という詩人の詩集をプレゼントしてくれました。吉本隆明と言っても皆さんは分からないかも知れませんが、当時はとても人気のあった詩人であり思想家です。でも、いまでは、小説家・吉本ばなの父と言った方が分かりやすくなっているかも知れません。

その先生は自分でも詩を書いていて、大学時代に作っていた手作りの詩の雑誌を見せてくれました。私はとてもかっこいいと思い、彼に憧れて、すっかり詩にはまり込んでしまい、現在に至っています。

高校に入学して嬉しかったのは、高校に立派な図書館があったことです。中学までは開架式といって、図書室の壁に本棚が置いてありましたが、高校の図書館には薄暗い書庫があって、はしごをかけないと手がとどかないほど本がぎっしり詰まっていた。その中に入り込んで、高い書棚を見上げてみると、ほら穴に潜り込んだ気分になったものです。

その時私が見上げていたのは、高い書棚に並べられている書物ではなく、知というものの高みだったのだと思います。中学時代に出会った先生も私にとっては憧れの対象となる高みでした。その時の気持ちを簡単に言ってしまうと、未知の世界への好奇心だったと思います。まだまだ自分の知らない広い世界があることへの好奇心。それを持ち続けることが、いまだに私の原動力になっているという気がします。

完

